

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。

さっぽろ  
市議団ニュース

<新型コロナウイルス感染対策症調査特別委員会>

2020年10月13日

No. 225

日本共産党札幌市議団 事務局

tel 211-3221 / fax 218-5124

## 福祉の現場は平時でも人手不足、もっと早い段階で支援を

田中啓介議員が質問

日本共産党の田中啓介議員が10月8日の「新型コロナウイルス感染対策症調査特別委員会」で、入所者・職員92名の感染者を発生させ、入所者17名が亡くなった「介護老人保健施設『茨戸アカシヤハイツ』(以下、施設)における新型コロナウイルス感染症集団感染に係る検証報告書」(以下、検証報告書)にもとづき札幌市の対応等について質問しました。

田中議員は、検証報告書に「看護師が減りつつも5月2日までは看護体制が維持されていたが5月3日はすべての看護師が勤務できなくなった」、また、介護職員については、「4月末には半減し、本来就業制限の対象である濃厚接触者となった職員も…稼働を続けざるを得ない状況であった」とあると指摘し、「介護の現場は1人欠けるだけでも大変」「札幌市としてもっと早い段階で介護職に対する支援・応援を要請できなかったのか」と質しました。前万美子高齢保健福祉部長は、「介護職員の不足を懸念し、法人本部に赴いて法人内の応援、職員の派遣について確認し、その一方で、関係機関への応援要請について、必要性の検討と事前の相談をしていた」と答弁。

「支援を」訴えている法人内でやりくりしてくれというのは、あまりにも！！

田中議員は、「介護現場というのは、特に福祉の現場は、平時の段階でも人手不足と言われ続けている。本当に深刻な実態」と、自らも福祉施設で働いていた経験から「応援に来てほしい」と言われても、「気持ちがあっても現実には支援ができないことがある」と語りました。さらに、「介護でも人が足りません。引き続き、看護・介護職の方のご支援・ご協力を」と訴えている「法人内でやりくりしてくれというのは、あまりにも介護・職員の実態が分かっていない」と追求。前部長は、「なかなか調整が進まない状況でしたので、これと並行して関係団体と協議を行うとともに、市内他法人の施設に対し個別の応援依頼を行ったり、人材派遣会社の紹介をして支援を重ねていた」と述べました。

田中議員は、「この施設において医療行為はもちろん、適切な介護支援も行える状態ではなかった」

「にもかかわらず、施設に陽性患者を留め置くという判断しかなかったのか」と厳しく指摘。高棹調整

担当部長は、「当時医療機関は逼迫していた状況にある」「看護・介護職員共に感染あるいは退職等々により急激に減っていった、私共も人員確保すべく懸命な取り組みを進めていたが、及ばず、看護・介護の水準が一時期落ちてしまったということは事実」と答弁しました。

寄りそってリネン・清掃業者と一緒に探すことが本市の役割

田中議員は、「集団感染の発生後、清掃とリネン交換を委託していた業者が撤退した」後の、市の対応についても質しました。高棹部長は、「清掃業者・リネン業者の撤退(への対応)の他に、感染拡大の防止、看護・介護水準の維持という課題が山積していて、総合的に判断して法人施設とともに優先度

の高いものから順次取り組みを進めた」と答弁しました。それに対し、田中議員は、検証報告書に「清掃・消毒も重要」と書いてあり、「これは優先度ではなくて同時並行で行っていくべき」、さらに、同報告書に「集団感染が発生した施設においては、混乱していることもあり法人が主体に専門業者を探すのは難しい」と書いている。「混乱して大変だというときに札幌市が行う対策はリネンに対応する業者の一覧リストを渡すということですか。そうではなく、寄りそってリネン業者とか清掃業者を一緒に探すことが本市の役割ではないか」と迫りました。

最後に、田中議員は、「現在は、感染予防対策にかかる費用について臨時的に補助があるが、今後、感染症対策は常に必要であり、継続して財政支援を行うことが重要」と質問したことに対し、**前部長**は、「札幌市におきましても国、道とともに検討を進めてまいりたい」と答弁しました。